

2006 年度日本木材学会中部支部大会をふりかえってみて

2006 年度中部支部大会事務局 吉野 安里
(長野県林業総合センター)

昨年度担当の土田さん(福井県)は、ざっくばらんにの報告されていて、様子がよく伝わってきました。そこで、私なりに、ざっくばらんに。

経費削減

土田さんも触れていましたが、「足を出さないこと」。これは、どなたが事務局をあずかっても気をもむ点のひとつでしょう。単に経費削減だけでは、気持ちまで縮まってしまいます。まあ、そこが事務局の腕のみせどころというもの。公的な施設ならば、驚くほど安く借りることができます。我々もこの点は考慮しました。ただし、すべてを自分たちの手でやらなくてはなりません。準備から後片付け・清掃まで、時間厳守で。一方、ホテルでは何かにつけ支出を伴います。しかし彼らは会場設営のプロです。そこで、自分たちでできることはやり、あとはプロの力を借りることにしました。後述しますが、結果としてこの作戦はうまくいったと思います。

創意とくふう

ポスター展示会場のやりくりがむづかしくなりました。当初は、懇親会場の場所をあてていたのですが、かなり大きなパネルを短時間で出し入れするのは無理だとわかりました。そこで別の部屋にしたのですが、パネルはやめて壁に展示することにしました。ちょうど美術館のように。ポスターを壁に直接貼ることはできないので、掲示用に合板を並べました。信州カラマツ 9mm 合板です。壁に立て掛けたのですが、違和感もなく、そのうえ経費削減にもなりました。ただ、ちょっと会場は狭かったですね。

また、立看板や、特別講演の次第などの印刷は、幅広のプリンタを持っているところをお願いして使わせていただきました。



写真—1 ポスター展示会場

協賛と広告

昨今の状況では、行政側からの金銭面での援助はまったく無理です。しかし、長野県内には、

学会活動に理解のある企業、NPO や団体が多く、この点ではとても恵まれているといえます。とても景気が回復したとは思えない状況でありながらも、多くの協賛や支援がありました。ご援助くださった皆様に、この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

学生ボランティアの活躍

まったく予想していなかったことですが、当日は、大勢の信州大学農学部の学生さんがボランティアで手伝いに来てくれました。これは先生の人徳ですね、たぶん。発表会場の設営、後片付け、時計係など、大会運営の重要な役割を担ってくれたことは忘れられません。とても感謝しています。ただ、彼らにコーヒーを飲ませてあげられなかったのが心残りです。

コンベンションビューロー

学会大会などの催しを支援してくださる、ありがたい団体です。お世話になった松本コンベンションビューローには親身になって相談ののってください、松本城や旧開智知学校の見学も支援していただきました。松本駅には歓迎の看板まで用意されていて、感無量でした。「コンベンションビューロー」は各県にあるそうです。もし大会を引き受けけることになったら、相談されることをお勧めします。



写真—2 晴天に恵まれた見学会

まとめ

という具合に、事前にあれこれと迷うよりも、スムーズにことを運ぶことができました。考えてみると、「事務局の努力」というよりは「周囲に助けられた」ということのほかありません。結構、事務局も楽しませていただきました。至らない点もあったかもしれませんが、貴重な経験をさせていただきました。本当にありがとうございました。

2006 年度中部支部大会メモ

開催地：松本市、大会参加 98 名、口頭発表 21 件、ポスター展示発表 16 件、見学会 38 名、懇親会 30 名